

## 授業改善等に関する報告書（2025年後期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2025 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネスプランニング	上野 亮 倉持 一	アンケート結果では、授業の満足度、説明や資料の分かりやすさ等を含め、総合的に見れば、十分な評価を得られたと認識しております。  本授業は1年生の必修授業ということもあり、PBL形式の授業を体験し、社会で活躍する方々からフィードバックを受ける(学外の方に提案し、その評価を受ける)という点を重視した授業としました。最後に企業の方たちに向けて、企画提案を行うという緊張感を持って、課題に取り組んだこともあり、成長を実感できたかの評価は科目平均4.31と高い値になっていました。  今回の授業を通じて、学修してきた内容は、将来、社会に出てからも必要とされるスキルです。ここで学修してきた内容は、ぜひ、今後も活かしてもらえればと思います。
現代生活学	犬塚 潤一郎	現代生活学科で学ぶことの意味は、社会の複雑さに気付き、それを単純化して捉えることへの、知的な抵抗力を培うことです。現代の危機の増大は、物事を単純化し、当面の問題だけに集中するような、意識の閉塞を続けてきたことに基因します。考え続ける大学生生活を。
ゼミナール	須賀 由紀子	4年ゼミでのプロジェクトに向けて、3年ゼミの経験を活かしていきましょう。
ゼミナール	河井 延晃	本授業では、特に前期はアカデミックスキルとして、図書館でのデータベース検索や文献批評の報告のやり方などの基礎的な内容に習熟しつつ、後期のビジネスプランニングでの発表報告につなげてゆく内容でした。  ビジネスプランニングは単に、思い付きではなく、各自の関心や調査に基づいて社会課題や現状を分析報告し、それに対して提案してゆくものでした。発表もふくめて大変だったと思いますが、お疲れさまでした。
ゼミナール	倉持 一	ゼミ活動はグループワークが中心となり、自己中心の学習に加えて他社との関わり、マネジメント領域まで手を入れていくことになりました。ゼミ生にはそれぞれ個性がある中で、しっかりとゼミ活動にコミットメントしたため、出力された成果物は着実にレベルアップしていました。
ゼミナール	行実 洋一	おおむね高い評価をもらえたが、例年に比べて、やや相対的に自己充実感や達成感のポイントが低かった。次年度は受講者がこうした点でも高い評価を得られるような、授業運営を心がけたい。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	研究の基礎力が培われましたね。次年度はそれを表現し、また成果に結びつける段階へと進みます。
ゼミナール	河原 豊	穏やかなゼミ運営にご協力いただきありがとうございます。とにかく作品作りに実験に頑張りましたよ
プロジェクト基礎演習 a	河原 豊	課題の取り組み方について双方向に議論ができてよかったです。
プロジェクト基礎演習 b	須賀 由紀子 合原 勝之	表現の基礎から実際の制作物づくりまで、一連の流れを理解していただけたものと思います。この授業を通して、ものづくりのあり方に興味を持っていただければ幸いです。
プロジェクト基礎演習 c	須賀 由紀子	精力的に授業参加していただき、実践的に学んでいただくことができてとてもよかったです。この経験を、今後のゼミ活動などにも役立てていただければと思います。
プロジェクト基礎演習 d	行実 洋一	全体的に高い評価をもらえたが、自己肯定感を高め、さらなる勉強意欲を高められるような授業運営を、引き続き行いたい。
プロジェクト実践演習 b	須賀 由紀子 合原 勝之	外部とのリアルな連携ですすめていく実践型プロジェクトであるため、予定したとおりにはいかず、調整が必要な場合もあります。授業内でいただいている皆さんからのコメントからは、全体的な満足感を得られていますので、授業のねらいをより理解していただけるよう、授業改善につなげていきます。
家庭経営 c (育児・介護)	笠原 良太 蟹江 教子	オムニバスで異なるテーマの授業だったが、回答者からは肯定的な評価を得た。映像資料を用いたため、学生の理解度が高くなったようである。
フィールドリサーチ c	河原 豊	演習課題の設定について工夫します。適切なグループワークができる環境を考えます。

[2025 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
統計とモデリング	上野 亮	<p>授業では基本統計量や相関、回帰分析といった、統計の中では基本的な内容を中心に扱いましたが、そもそも統計というテーマが難しいこともあり、統計学の考え方やPC操作に慣れていない学生にとっては内容が難しかったのか、理解度や満足度は少し低めになってしまいました。ただ、記述回答では「ExcelやRの理解が深まった」「ExcelやRの技術が向上した」といった趣旨の回答もあり、授業目標は概ね達成できたかと思えます。</p> <p>今回の授業で扱った内容は調査報告書や論文等の文献を読み解く際、自身がデータに基づき報告書や論文を書く際、必要になる内容です。ぜひ、今後も授業で学修したことを活かしてほしいと思います。</p>
コミュニティ概論	須賀 由紀子	<p>コミュニティや地域活性について、理解や興味を持っていただけた方が多く、よかったです。授業を通して得た気づきを、実際に活かしていただければと思います。</p>
グレートブックスセミナー2b	犬塚 潤一郎	<p>未だ、突然に登場してきたに近い状況のAIですが、どう使うかの前に、それが「何であるのか」を技術原理に基づいて考える必要があります。そのうえでの利用技術の習得、試行を楽しんでもらえたことを頼もしく思います。</p>
地域文化形成論	須賀 由紀子	<p>人口減少の中で、地域の自然や文化の価値を活かして、それぞれの地域が様々な活性化の工夫をしています。そのあり方、意義や可能性について、興味を持って学んでいただけたようです。ぜひ引き続き、地域への目線を向けていただければと思います。</p>
グローバル社会	上野 亮	<p>今年度、初めて担当した授業ですが、満足度や説明、資料のわかりやすさに関しては十分な評価を得たと認識しております。</p> <p>一方、今年度は講義中心に進めてきた関係上、履修者自身が調査し、考えるような時間をあまり設けられなかったのが、来年度は実際に自分たち自身で調査をして、講義で扱っているような課題が、本当にネット空間で起きているのかを調べてみる等、もう少し演習的な要素を加えても良いかと考えています。</p> <p>本授業では、現在のグローバル社会におけるICTの影響、情報化の進展に伴う諸課題について、日頃のニュース等でも扱われる内容を中心に、幅広く扱ってきました。現在の私たちの暮らしは、IGTと切り離すことは難しい状況です。だからこそ、本授業で学んだ内容を踏まえ、様々なサービスを便利だと思い、使うだけでなく、その弊害も理解して、活用できる人になってもらえればと思います。</p>
環境マーケティング論演習 a	河原 豊	<p>企業分析をお願いし、有価証券報告書などをもとに説明しました。いくつかの企業について掘り下げましたが、皆さんの就活に役立つようにもっと具体的に議論ができるようになります。</p>
環境マーケティング論演習 b	倉持 一	<p>本科目は基本的には少人数のプレゼミ方式で構成し実施されているが、履修者はしっかりと授業に参加して自己の意見を述べ、プレゼン資料を作成するなどの努力を見せていた。</p>
エコビジネス演習	河原 豊	<p>シラバスを修正しました。演習テーマの設定を工夫します。講義の目標についてはご理解いただきありがとうございます。</p>
環境化学演習	河原 豊	<p>シラバスを修正しました。演習の進め方も工夫します。講義の中身についてはご理解いただきありがとうございます。</p>
環境マネジメント論 金曜配信 (日野)	浪崎 直子	<p>本授業では、オンデマンド授業でありながらも、manabaのスレッド機能を活用して受講生同士の意見交換を促進したり、プロジェクト機能を活用してオンライングループディスカッションに挑戦したりするなど、できるだけ双方向になるよう工夫しました。</p> <p>特に、受講生から「サステナブルな行動を前よりもすることが増えたので受講して本当に良かったと思う。宿題の内容が良く、楽しく取り組める上に、先生による説明や資料がわかりやすく、意欲的に学ぶことができた」「対面でないのに、グループワークや先生にコメントがしやすい環境が作られていたのが良かった」とコメントいただいたことは励みになりました。今後も、ご自身の興味を掘り下げて、他者と協働しながら環境の活動を実践していただければと願っています。</p>
環境思想演習	犬塚 潤一郎	<p>環境問題は、政治・技術・経済の複合課題として現れますが、その規定には文化・世界観・人間観の課題があります。思想研究は難解ですが、問題対処の基本的視野のために必要です。継続して考えてゆかれますように。</p>
生活産業史	倉持 一	<p>本科目は履修者にとって身近な産業である、アパレル、食品、住宅の3産業を取り上げ、各産業の抱える課題の歴史的変遷を理解しつつ未来を展望する内容であった。大学生の関心は半径数メートルとも揶揄されるが、授業内での発言やテスト解答などを見てみると、履修者はしっかりと社会課題を捉え、今後の私達の生活に何が必要なのかを考えていた。</p>

[2025 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
社会責任論	倉持 一	本科目は、現代の企業経営において欠かせない「社会責任」の考え方や実際の経営における配慮を取り上げているが、実は非常に概念的な部分、倫理的な部分などが輻輳する難しい科目である。しかし期末テストの結果などを見ると、履修者はしっかりと授業内容を把握し、社会責任を果たすための論拠を理解したことがうかがえた。
女性社会論 b	倉持 一 須賀 由紀子	本科目は、専門領域や性別の異なる二人の教員が、極めて異なる視点から女性社会を論じるという極めて現代生活学科らしい科目である。高い評価を受けていることから、履修者は女性社会というものを言葉だけでなく多角的な視野で考えることの重要性や必要性を学んだものと受け止めている。
メディアアート論 b	犬塚 潤一郎	今期は都市をメディアとして捉える研究について解説してきました。経済と生活に加えて、都市には芸術や記憶がたちを成しています。それを捉え、確かめ、関わり続けることを考えてきました。「環境」にとどまらない都市の姿について、考え続けてください。
メディアプロデュース論	行実 洋一	全般的に高い評価をもらっている一方、履修者の自己達成感の部分がややポイントが低いので、学生が向上感、達成感を得られるような工夫を次年度は考えていきたい。
広告とメディア	行実 洋一	全般的に高い評価をもらえたが、受講者の自己評価がもう一つという側面も見られた。講義科目であるため難しい部分はあるが、より自己達成感が高まるような授業運営を工夫してみたい。
企業研究 a	倉持 一	必修科目ということで、本科目に対する関心の度合いや意気込みなどに差はあったかと思うが、履修者の皆さんは真摯に本科目に参加し、現代の企業を研究するうえで欠かせない最新の視座（強さと優しさ）を学び取れたものと考えている。
基礎メディア技術	河井 延晃	<p>本授業「基礎メディア技術」は1年次配当科目の講義科目として開講しました。すべての項目で4（5尺度）を超えていましたが、そのうえで、アンケート内容の分析の上で授業改善について解説します。回答者28人（回答率73.7%）</p> <p>Ⅲ群の「全体の総合評価」について、授業を通じた自身の成長を実感ができたか（4.50）、意欲的に取り組んだか（4.61）、総合的な満足度（4.43）、さらにこの科目を学びたいか（4.39）でしたが、自分に成績をつけるとしたほうが4.14とやや低めになっています。これについては、期末課題の成績発表まえに、アンケートがあったことも関係あると考えます。JLIFE! 通信（現生通信）については、相互評価を行いました。入賞や投票数で一喜一憂する必要はなく、よいものを分析的によみとくことも重要です。</p> <p>また、2群の、「この授業内容と方法について」についても、「シラバスとの一致（4.39）」、「説明はわかりやすかったか（4.32）」、「双方向授業の工夫（4.43）」、「板書やパーポイントのわかりやすさ（4.46）」、「声のきき取りやすさ（4.50）」に対して、「各回の授業スピード（4.14）」とやや低くなっています。</p> <p>これに関しては、教科書があったため、それを消化しようとするため、やや早くなった点があったこと、またある程度すすんで復習をやるなど工夫したつもりでしたが、むしろこの点は少しアンケート内容も踏まえて、強弱をつけることで改善できると考えます。</p> <p>質問1群の「学生自身について」の項目について、学生の欠席回数がやや多い（1.04回（学科平均0.94））な点はありますが、予習復習時間はやや高く（0.98h（学科平均0.95h））学生の課題からも、まじめな授業だったと思いますが、皆さんのまじめさにも支えられた授業や課題だったと思います。以上、改善点を中心に報告とします。</p> <p>全体としては、総合満足度（4.43）で、さらにこの科目を学びたいか（4.39）ということで、もしもこの授業の内容に関心を持たれた方は、2年次配当の「応用メディア技術」をぜひ履修してみてください。</p>

[2025 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Webテクノロジー演習	河井 延晃	<p>本授業は2年次以降の配当科目Webテクノロジー演習で、制作課題も含めた授業内容として開講しました。単に技術的習得だけでなく、期末課題の企画書や各自の関心のある内容を外部取材するなど、多岐にわたる作業課題がありました。</p> <p>また、シラバス記載の教科書『Webデザインの新しい教科書 改訂3版 基礎から覚える、深く理解できる』をもとにしつつも、授業内フィードバックを重視しながら進めました。すべてが学科平均や大学全体平均を超える高い評価になっていますが、改善案がないわけではありません。以下ではアンケート項目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの全16の設問なども振り返りながら、本授業の次年度の改善について考えてみたいと思います。</p> <p>Ⅰ群の「あなた自身について」 まず、本授業は朝の授業であったこともあり、やや欠席回数が高めに出ています(1.00(学科平均0.94))。しかし、「あなたの授業の理解度」は87.5%となっており、学科の科目平均や大学全体の平均と比較しても、とても高い理解度になっております。</p> <p>もっとも、授業中の序盤のやり取りで「他の先生のプログラミングの授業より難しい」という意見を聞いていたので、正直この高い評価は難しさをきちんと理解に変えられてよかったとほっとしています。おそらくプログラミング授業難しい箇所は、CSSまわりの作業や技術だと思えます。この点、何度もゆっくり授業進行を心がけました。</p> <p>この点もあり、授業の進むスピード(5(max))、説明のわかりやすさ(5(max))、双方向授業の工夫(5(max))に反映されているとかがえまます。ただし、これは結果としての評価であり、かなり授業中に学生側も努力したことも見逃せないと考えます。</p> <p>Ⅲ群の「全体について」 この授業を通じて自分の成長に実感できたか(5(max))、さらに学びたいか(5(max))、総合的な授業への満足度(5(max))です。しかし、これは私の授業努力だけではなく、学生の意欲的取り組みにも支えられたことも事実です。</p> <p>本年度の授業改善点としては、今年のやり方としても教科書を使用しつつも、強弱をつけて何度も繰り返す箇所と、そうではない点を分けた点がありました。次年度に向けてやることといえば、むしろそれらを踏まえた要約資料を作成してオリエンテーションで告知しておくことが一つかと思えます。</p> <p>また、本授業では期末課題に際して、企画書や取材まで伴う内容でした。これらも含めて、学生のやる気にも支えられた授業として学生評価の高さにつながったのかと考えます。授業課題お疲れさまでした。</p>
現代社会を読み解くc(文化と市場)	河井 延晃	<p>本授業は1年次配当科目の講義科目として開講しました。すべての項目で4(5尺度)を超えていましたが、そのうえで、アンケート内容の分析の上で授業改善について解説します。回答者28人(回答率73.7%)</p> <p>Ⅲ群「全体の総合評価」について 授業を通じた自身の成長を実感できたか(4.25)、意欲的に取り組んだか(4.17)、総合的な満足度(4.25)、さらにこの科目を学びたいか(4.50)でしたが、「自分に成績をつけるとしたら」が4.00とやや低めになっています。これについては、期末課題の成績発表まえに、アンケートがあったことも関係あると考えます。ただし、授業コメント(レスポンス)での回答内容を、もっと褒めるなどインタラクションのやり方を工夫することで、学生の自己評価を上げることで、改善は可能かと思えます。</p> <p>Ⅱ群の、「この授業内容と方法について」 これについても、「シラバスとの一致(4.25)」、「説明はわかりやすかったか(4.33)」、「双方向授業の工夫(4.42)」、「板書やパワーポイントのわかりやすさ(4.46)」、「声のきき取りやすさ(4.17)」に対して、「各回の授業スピード(4.25)」と相対的にやや低くなっています。これに関しては、授業中でも説明させていただきましたが、11月頃に気管支炎(喘息)になったことで、聞き取りづらい状況が数週間あったことは事実です。体調管理を徹底したいと考えます。あらためてご迷惑をおかけしました。</p> <p>質問Ⅰ群について 「学生自身について」の項目について、朝の授業ということで、学生の欠席回数はすくなく(0.50回、(学科平均0.94))、理解度82.1も学科平均や全体平均を超えるものでした。ここではまじめな学生が履修されていたことが解釈できます。</p> <p>学生の課題からも、本授業では座学だけでなく「データベース検索」の演習や課題などもあり、他の授業にない点はレポートへの学生コメントからもうかがっております。 まじめな授業だったと思えますが、皆さんのまじめさにも支えられた授業や課題だったと思えます。以上、改善点を中心に報告とします。</p>

[2025 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
メディアコミュニケーションb	河井 延晃	<p>本授業は2年生後期以降の配当科目の「メディアコミュニケーションb」となります。また、今年は『ネットマーケティング検定』に準拠したテキストを利用しました。</p> <p>まず、16項目のうちすべての5尺度評価項目で4を超えています。総合的な満足度も、学科平均と大学平均を超える4.57(最大5)でした。そのうえで、本報告においては、あえてこのうち「評価の低い項目」などを中心に分析して、それぞれ今後の授業改善案として回答したいと思います。</p> <p>質問項目1群について これは朝の授業ということもあり、学生の欠席回数が平均よりやや多くなっています(1.14(学科平均0.94))。しかし、予習復習時間はほぼ同等で、授業の理解度もむしろ高くなっています(82.9%)。決してやさしい内容の授業ではなかったと思いますが、この点は皆さんの授業への取り組み態度などとも関係していると考えます。</p> <p>次に、2群の「この授業の内容と方法について」です。 全て4を超えているといえ、評価にばらつきがあります。シラバスの内容と一致している(4.71)、説明のわかりやすさ(4.43)、双方向授業(4.29)、担当教員の声や言葉のわかりやすさ(4.43)に対して、配布資料のわかりやすさ(4.00)となっている点に留意します。配布資料自体はテキスト以外には、オンラインでのリンクや記事の共有程度でした。初回のオリエンテーションで、紙に印刷した進捗資料を一枚配布しておくこの点安心できてわかりやすかったのではないかと思います。 特に、教科書は章の順番を入れ替えて授業を進めたところがありました(これ自体は授業内容に即しており、納得されると思います)。この点はオンラインでもその都度告知して記録を残していましたが、もっとこの点のアナウンスやオリエンテーションに努めてよかったのではないかと改善点としてあげたいと思います。</p> <p>3群の「全体について」 最後に3群ですが、これは全5項目で最低でも平均4.4を超えており総じて評価いただきました。ただし、個人的に反省すべき点は2群の教科書の扱い方で、この点をうまくオリエンテーションしてゆけばさらに評価いただけたのではないかと考えております。 各項目の平均を確認すると、自身の成長が実感できたか(4.43)、この科目をさらに学びたいか(4.43)、この授業に意欲的に取り組んだか(4.86)となっており、総合的な授業満足度も4.57となっております。ただし、この評価の裏には、教員の努力だけでなく、むしろ履修生の「意欲」や「誠実さ」にも支えられて両輪ですすめていった授業であると考えます。レポートもAIでは作成できない内容で、学生それぞれの取り組みを重視する課題としておりました。評価は総評した通りですが、お疲れさまでした。</p>